

復命書

令和2年1月25日

三沢市議会議長 船見 亮悦 殿

三沢市議会
太田 博之 ⑩

旅行の復命について

広島県呉市、広島市に於いて行政視察を実施したので、その概要について下記のとおり復命いたします。

記

1、期 間

令和2年1月15日（水）から
令和2年1月17日（金）まで

2、視察先

- ①広島県 呉市（呉市役所）
- ②広島県 広島市（広島市役所）

3、行政視察

①広島県 呉市

- ・くれワンダーランド構想について
 - 1. 構想に至った経緯（ビジョン策定プロセス）
 - 2. 構想及び同推進会議の概要
 - 3. 青山クラブ等公募型プロポーザルの概要
 - 4. 様々な施策の効果と課題
 - 5. 地域別における施策のポイント

②広島県 広島市

- ・学校における平和教育について
 1. 子供たちの平和学習推進事業の概要
 2. 小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信に係る事業の概要
 3. 全国、世界に向けてこの教育の意義について

視察概要一1【広島県 呉市】

- 1、日 時：令和2年1月16日（木）午前10時～午前11時30分
- 2、場 所：呉市役所
- 3、対応者：呉市議会事務局
議事課 主査 石本 史紀
担当者：呉市企画部 企画課
課 長 大森 和雄
企画員 平賀 英司
- 4、視察項目：くれワンダーランド構想について
 - ①構想に至った経緯（ビジョン策定プロセス）
 - ②構想及び同推進会議の概要
 - ③青山クラブ等公募型プロポーザルの概要
 - ④様々な施策の効果と課題
 - ⑤地域別における施策のポイント

呉市の概要

地形的に天然の良港と言われ、古くは村上水軍の一派が根城にしており、明治時代以降は、帝国海軍・海上自衛隊の拠点となっている。第二次世界大戦中は、帝国海軍の拠点でもあった。2005年3月20日に周辺の安芸郡音戸町・倉橋町・蒲刈町、豊田郡安浦町・豊浜町・豊町を編入した。これによって呉市は本州にある地域と下蒲刈島、情島に加え、南の倉橋島、上蒲刈島、豊島、大崎下島を加えて人口25万人規模の市となった。2016年の中核市指定と同時に保健所政令市に指定された。造船・鉄鋼・パルプ・機械・金属などを中心とした臨海工業都市として発展している。また、大和ミュージアム・てつのくじら館など海軍・海上自衛隊に関する博物館がある。京都府舞鶴市共に同時に自分の街が大日本帝国海軍由来の肉じゃが文化がある肉じゃが発祥の街を名乗っている。市内仁方地区のやすりの生産量は日本一。

①構想に至った経緯（ビジョン策定プロセス）

2017年に行われた呉市長選挙において当選した新原市長のマニフェストに「くれワンダーランド構想」が掲げられ、当選後速やかにこの構想案が具現化された。また、構想の骨子については各項目ごとに担当課へ振り分けられ、その後、企画部企画課の職員により取りまとめられた。

②構想及び同推進会議の概要

「くれワンダーランド構想」の概要は、以下の3点で集約されている。

VISION 1 自然と調和した未来志向の「イキイキした呉」を構築

VISION 2 女性と若者のチャレンジ支援と時代を先ドル取る産業の創造

VISION 3 世界に自慢できる交流都市への発展

また、この構想を実現するために、同推進会議が設置され以下の目的をもって、構成員で確認作業が行われている。

<会議の目的>

上記のVISION 1～3を目指し、専門的な見地や市民の立場等から幅広く意見を求めること等を通じ、くれワンダーランド構想を推進することを目的としている。

<会議の構成員>

呉市顧問や、市職員はじめ広島大学、NPO法人、国立病院、金融関係、商工業関係者はもとより、市民から無作為抽出した市民が2名含まれ、計15名で構成されている。

③青山クラブ等公募型プロポーザルの概要

特徴的な歴史と外観を有する青山クラブ・桜松館について、建物の規模や構造、老朽度、耐震性等を十分踏まえながら市中心部における回遊性のさらなる向上に資するにぎわい拠点として整備・活用法を検討し

ている。また、市民や民間開発事業者から事業提案を募り、今後はプロポーザル方式のコンペ等を考えている。

④様々な施策の効果と課題

事業内容が幅広く、各担当課がそれぞれ具現化に努める中、推進会議はじめ企画部での全体像の集約に苦慮しているのが現状である。しかし、市民の認知度も高く、スピード感をもって進められている。

⑤地域別における施策のポイント

地域別の施策については、事業内容が多岐にわたり詳細は割愛するが、担当者からは、地域別のそれぞれの事業推進のため課題整理や市民による対話がなされている中、それぞれの地域に新しいリーダーが現れ、そのことに大きな喜びと衝撃を受けたとのことである。

【視察所感】

今回の視察で衝撃的だったことは、「くれワンダーランド構想」が市長マニフェストからの発信であり、市民の負託に応えるべく市職員は下より産学官民の連携により事業が進められていることである。長年、マニフェスト選挙に関わってきた一人として、首長の選挙に於いてのマニフェストの威力をこれほど感じたことはない。

それは、マニフェストが3つの項目に絞られているが、連続するまちづくりの基本構想になっているからである。そういった観点から呉市の基本構想との整合性を問うたところ、担当者は正直に難しいことは多々あったが、基本構想とのすり合わせ時間をかけて行い、矛盾点を少しでも無くする努力があったことは特筆するところである。

いづれにしても、市長のマニフェストの重要性とその持つ力に圧倒された思いであるが、その一方でそのマニフェストを支持し選んだ有権者（市民）が選びっぱなしではなく、行動に積極的関わってきている姿は、正に市民主役の政治・行政運営がなされていることに他ならないと思う。

最後に、推進会議の市民からのメンバーを無作為抽出で任命したことは、本市における市民参加の一つであるのではないかと、今後の検討課題であると強く感じた。

以上

視察概要—2【広島県 広島市】

- 1、日 時：令和2年1月16日（木）午後2時～午前3時30分
- 2、場 所：広島市役所
- 3、対応者：広島市議会事務局
姿勢調査課 部長 石井 一司
担当者：広島市教育委員会
学校教育部 指導第一課 課長補佐 筒井 順也
指導主事 三本松 千恵
- 4、視察項目：学校における平和教育について
 - ①子供たちの平和学習推進事業の概要
 - ②小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信に係る事業の概要
 - ③全国、世界に向けてこの教育の意義について

広島市の概要

世界史上初めて核兵器（原子爆弾）で爆撃された都市として、世界的に知名度が高い。それ故に、「国際平和文化都市」としても一定の影響を持っており、広島市長の発案で創設された「平和市長会議」には150を超える国から4600以上の自治体が加盟している[1]。第二次世界大戦以前には「軍事都市」であった歴史とは対照的である。

古代・中世には現在の広島市街地がある太田川デルタは形成されておらず、安芸国の中心としては国府が現在の安芸郡府中町または東広島市西条にあったと推定され[2]、太田川中下流域の祇園[3]・戸坂[4]から可部[5]にかけて荘園、郷が広がっていた。16世紀末、戦国武将の毛利輝元が太田川デルタを干拓して築城を開始したのをきっかけに地域の中核機能が太田川デルタへ移り、都市としての広島の発展が始まった。江戸時代には、広島藩42万石の城下町として藩主浅野氏のもとで発展した。明治時代に入ると、陸海軍の拠点が集中する軍事都市となり、特に日清戦争時には広島大本営が置かれて明治天皇が行在し、第7回帝国議会は広島市で開かれるなど、臨時の首都機能を担った。

第二次世界大戦末期の1945年8月6日、アメリカ軍の戦略爆撃機B-29「エノラ・ゲイ」によって広島市中心部の相生橋上空に原子爆弾「リトルボーイ」が投下され、きのこ雲が立ち上り、市街地は一瞬にして破壊された。投下当日中に数

万人、1945 年末までに推計 13 万人の人命が奪われ、生存者も火傷痕（ケロイド）、放射線後遺症、精神的後遺症（PTSD 等）、遺伝への不安に生涯苦しむなど、市民が経験した苦痛は人類史上類を見ないものであった。

原爆投下後は一時的に人口が 20 パーセント減少したが、戦後は重工業や自動車産業を中心に復興し、現在では日本の主要な工業都市となっている。1980 年 4 月 1 日には札幌市・川崎市・福岡市（3 市とも 1972 年 4 月に指定）に続いて全国で 10 番目となる政令指定都市に指定された。1985 年 3 月に人口が 100 万人を突破し、現在では全国の市で 10 番目の人口を抱える（→日本の市の人口順位）。

地理的には山陽地方のほぼ中南部に位置しており、太平洋ベルトを構成する広島都市圏の核となっている。京阪神と福岡都市圏のほぼ中間に位置しているため、中国地方あるいは中国・四国地方を統括する政府機関や、全国規模で展開している企業の地方拠点も多く置かれている（支店経済都市）。また、瀬戸内工業地域を構成する西日本有数の工業都市でもあり、沿岸部は工業地帯となっている。また、沿岸漁業も盛んである。

近年では西風新都などの郊外のニュータウンでの人口増加も引き続き見られる一方で、平和大通りに新たに高層ビル群が生まれるなど都心回帰の傾向も見られる。

中区以外においても、広島駅周辺を始め、宇品や緑井、段原などの開発・再開発が進み、既存の商工センターや西風新都と併せて、都市拠点機能が活性化している。交通インフラ面では都市高速道路である広島高速道路の整備のほか、広島電鉄による市内線路面電車の LRT 整備や、1994 年の広島アジア大会の開催に合わせて開通した広島高速交通「アストラムライン」の延伸、および JR 山陽本線とのアクセス改良計画が進むなど多方面から都市機能の充実が進められている。

2019 年現在、広島市中心部はオフィスビル建て替えやホテル建設ラッシュに沸いており、市内中心部へのサッカースタジアム（J1 サンフレッチェ広島の新たな本拠地）建設計画や、駅ビル建て替えを含む広島駅再整備計画、広島駅周辺への高層オフィスビル建設計画など、大型再開発計画が目白押しで、まさに活況を呈している状況である。これらにより近い将来、広島市の都市としての魅力が大きく高まると期待されている。

① 子供たちの平和学習推進事業の概要

平成22年3月に広島市教育委員会が、「平和に関する意識実態調査」を実施した際、広島市の被爆年月日時（1945年（昭和20年）8月6日8時15分）の正解率が、小学校で33%という結果に衝撃を受け、平成25年から学校における平和教育の推進事業が始まった。

【平和教育の目的】

ヒロシマの被爆を原点として、生命の尊重と一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として、世界の恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。

この平和教育における学校の主なる取り組みとして

<小学校>

- ・被爆体験を聴く会
- ・平和を考える集い
- ・被爆樹木の見学
- ・読み聞かせ、ビデオ視聴など
- ・折鶴の昇華活動
- ・ピースキャンドルの作成
- ・大きな絵の作成

<中学校>

- ・被爆体験を聴く会
- ・平和を考える集い
- ・折鶴の昇華活動
- ・碑めぐり

<高等学校（市立）>

- ・被爆体験を聴く会
- ・平和を考える集い
- ・ピースデパート
- ・平和交流
- ・慰霊祭
- ・絵画・演劇など

以上のように、小学校から高等学校までの12年間を通した指導内容の体系化を目指す。

そして、その基本方針は以下の4項目となっている。

- 学習指導要領に基づき、発達段階に即した目標、内容の設定及び教科等に関連させた教材の作成

- 原爆による惨禍の事実とともに、市民が平和への願いや希望をもち、広島市の復興に寄与してきた事実を併せた内容で構築
- 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の重視
- 平和で持続可能な社会の実現に係る学習の重視

② 小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信に係る事業の概要

平和教育の推進の中で、「被爆体験の確かな継承と、平和について自らの意見や提言等の発信」と題して以下の2項目に分けて実施している。

<こどもたちの平和学習推進事業>

【目的】

児童生徒の発達段階に即した平和教育プログラムによる学習を推進するとともに、被爆体験を聴く会や平和を考える集い等の開催などの被爆体験を原点とする学習を進め、さらなる平和教育の充実を図り、世界の恒久平和の実現に向けて、主体的に行動することができる児童・生徒を育成することを目的とする。

<小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信>

【目的】

小・中・高等学校の各段階において、児童生徒による平和についての意見や提言等の発信を通し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成することを目的とする。

また、「若い世代への継承」の事業として青少年育成部育成課が

- 広島・長崎市児童生徒平和のつどい
 - 青少年国際平和未来会議の開催
 - 広島市・大韓民国 大邱（テグ）広域市青少年交流事業
- など、世界へ向け確かな継承と発信を継続的に実施している。

③ 全国、世界に向けてこの教育の意義について

戦争体験・被爆体験の風化が叫ばれる中、被爆体験の確かな継承とともに、互いの人権を尊重し、国内外の人々と手を携え、世界恒久平和の実現に向けて主体的に行動しようとする意欲や態度及び実践力の育成が極めて重要である。

【視察所感】

初めに、広島市の「子供たちの平和学習推進事業」の事業開始年度が平成25年度ということと、その事業のきっかけになったアンケート調査票をみて愕然とした。

また、この平和学習が学習指導要領に基づき構築され、教材もその教科を逸脱しないよう作成されていることは想像もしていなかった。

そうした中、今回の視察一番の目的は基地を持つまちとしての平和教育とは何なのか。そのことについて参考となるアドバイスを求めたが、立場上コメントは控えるとのことであった。

いずれにせよ、世界で初めての原爆投下地として世界への平和発信の重要性を強く感じたものの、被爆体験者も少なくなりその生の声を聴くことは既にできない状況であり、今後よりリアルな継承について一考しなければいけないとのことであった。

最後に、先の大戦で広島市が「原爆」という悲惨な体験を後世にどのように伝えていくのか。その重要性は理解できたが、現実に今世界で起こっている紛争や戦争への危機感はあまり伝わってこなかった。

断定することは控えるが、戦争は過去のものであり、常に世界情勢に敏感で戦争の危機感を日常的に感じてる基地を持つまちとして、国際平和や安全保障に関わる三沢市民の平和教育も学ぶだけでなく、発信する重要性を強く感じた。

● 呉市役所



●広島市役所

